

令和7年度 事務事業マネジメントシート

1 事業概要		段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価				10075 東京2020オリンピック・パラリンピックレガシー継承事業費					文化スポーツ観光部	スポーツ振興課
		中事業番号	1230								所属コード	162000
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	意図（目的）	
大綱（取組）	Ⅳ 「誰もが地域で輝く未来」	3.4	○	2-2							東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承し、スポーツに対する機運醸成を図り、スポーツの振興を図るとともに、パラスポーツの普及と理解を深め、共生社会の実現を図る。	
施策	2 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち											

事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）				住民意向分析			
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が終了した。		東京2020大会のレガシーとして、スポーツを人間の調和のとれた発達に役立てるというオリンピックの理念と、パラスポーツへの理解を深め、普及を進めるなど、共生社会の実現に向けた取り組みが求められている。		東京2020大会のレガシーとして、将来を期待される子どもの競技力の向上やスポーツとの多様な関わり方を支援するとともに、年齢・性別・障がいの有無に関わらずスポーツに参画することができるパラスポーツの普及を推進することは、SDGsの理念である「誰一人取り残されない社会」の実現のため、ますます重要となってくる。				東京2020大会の開催に続き、パリオリンピックでの日本人選手の活躍によりスポーツへの関心が高まりを見せしており、また、この夏には東京世界陸上の開催も予定され、更なる参加や観戦意欲の高まりが予想される。			

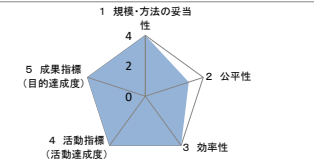
2 事業進捗等（指標等推移）

			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名			2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		中間指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	2021年度	最終指標
対象指標	市民	人		324,586		322,515		319,680								
活動指標①	障がい者スポーツ体験教室回数	回	1	3	3	3	3	5	3		3		3			
活動指標②	トップアスリート養成教室実施回数	回	6	5	6	5	6	4	6		6		6			
活動指標③	スポーツ教育実施校数	校	15	15	15	14	15	18	15		15		15			
成果指標①	障がい者スポーツ体験教室参加人数（R5まで）/パラスポーツ関心度（R6から）	人 / %	40	59	60	68	60	62	65		65		65		65	65
成果指標②	トップアスリート養成教室参加人数（R5まで）/各スポーツ教室参加者数（R6から）	人	200	135	200	278	1,300	1,472	1,300		1,300		1,300		200	1,300
成果指標③	スポーツ教育授業参加人数（R5まで）/（なし R6から）	人	2,000	1,235	2,000	1,130										
単位コスト（総コストから算出）	スポーツ教育授業参加者1人あたりのコスト（R5まで）/各スポーツ教室参加者1人あたり（R6から）	千円		8		6.3		4.3	5		5		5		5	
単位コスト（所要一般財源から算出）	スポーツ教育授業参加者1人あたりのコスト（R5まで）/各スポーツ教室参加者1人あたり（R6から）	千円		7		5.9		4.0	5		5		5		5	
事業費		千円		2,018		2,829		1,716	2,474		2,474		2,474		2,474	
人件費		千円		7,314		4,383		4,553	4,383		4,383		4,383		4,383	
蔵出計（総事業費）		千円		9,332		7,212		6,269	6,857	0	6,857	0	6,857	6,857		
国・県支出金		千円		422		446		447	630		630		630	630		
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		8,910		6,766		5,822	6,227	0	6,227	0	6,227	6,227		
蔵入計		千円		9,332		7,212		6,269	6,857	0	6,857	0	6,857	6,857		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続	継続							

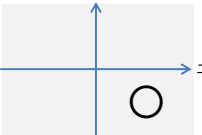
活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
・障がい者スポーツ体験教室（ポッチャ教室）の実施回数は、計画値を上回る開催回数であった。 ・トップアスリート養成教室実施回数は、計画値を下回った。 ・スポーツ教育実施校数については、計画値を上回る実施となった。		・パラスポーツへの関心度は、これまでの体験教室の開催等により、計画値を上回った。 ・各スポーツ教室延べ参加者数については、計画値を大きく上回った。		【事業費】 ・トップアスリート養成教室について、競技実績の高い魅力ある指導者を招き教室を、3種目で4回開催した。 【人件費】 ・人件費については、前年と同程度であった。	

3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価	
1 規模・方法の妥当性	4
2 公平性	3
3 効率性	4
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4



(2) 事業継続性評価	
代替事業（有）	
ニーズ（小）	ニーズ（大）



継続	一次評価コメント
著名なアスリートからの直接指導による選手の競技力向上のほか、パラスポーツの普及、啓発にも努め、活動指標、成果指標とも概ね目標値の達成が図られた。 本事業は競技力の向上、児童生徒や幅広い年齢層のスポーツへの多様な関わり方の支援や共生社会への実現に向けた理解促進につながることから、継続して事業を実施する。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
	○		○		

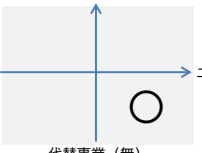
気候変動対応	D X (デジタル市役所)	部局間協奏
	○	○

4 二次評価

(1) 事業手法評価	
1 規模・方法の妥当性	3
2 公平性	3
3 効率性	4
4 活動指標（活動達成度）	4
5 成果指標（目的達成度）	4



(2) 事業継続性評価	
代替事業（有）	
ニーズ（小）	ニーズ（大）



継続	二次評価コメント
例年と比較し、障がい者スポーツ体験教室及びスポーツ教育実施校数は増加し、パラスポーツへの関心度上昇や、子どもたちのスポーツの普及活動が進んでいる。一方で、トップアスリート養成教室の実施回数が減少しており、ニーズに合った効率的かつ効果的な養成教室の実施が検討課題である。 今後においても、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーを活用し、パラスポーツの普及啓発やトップアスリートを招いての養成教室によるスポーツ全体に対する機運醸成が必要であるため、継続して事業を実施する。	

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画	